

学生企画 学びのコミュニティー “Hatoba” の取り組み

的場 一将¹⁾、森岡 芳洋²⁾、堤 和博²⁾、斉藤 隆仁²⁾

1) 徳島大学総合科学部人間社会学科 3 年、2) 徳島大学大学院 SAS 研究部

1. はじめに

平成 20 年度より徳島大学全学共通教育センターで「地域社会人ボランティアを活用した教養教育」が取り組まれている。その一環として、開放されている学生支援室は、学生と社会人との交流の場となっている。的場は、学生支援室への出入りを通じて、学生が主体として行うイベントを企画・運営したいと思うようになった。そこで、2009 年 10 月より学生企画である学びのコミュニティー “Hatoba” を設立した。Hatoba の理念は「あなたのオリジナルカラーは何色ですか」である。学生の視点で様々な課外学習活動を企画し、それらを学生や教員・社会人に提供することで参加者自身のオリジナルカラーを発見、また再確認する手助けを目標としている。本発表では、既に実施している「恋のうた学習会」と「洋画字幕翻訳コンテスト」について報告する。

2. 恋のうた学習会

課外学習活動を企画するにあたり、「楽しみながら学習できる企画」を目標とした。一般に、「楽しみながら学習できる企画」は、実験を伴う理系分野のことが多いように思われる。そこで、文系分野でも楽しみながら学習できるものはないかと考え、当初よりの的場（以下、企画者）が興味の高い“和歌を詠む”企画を発案した。しかし、和歌には様々な歌集があり、どのような歌集を扱おうと迷っていたところ、以下に挙げる万葉集収録の和歌と出会った。

我が背子に 我が恋ふらくは 夏草の
刈りそくれども 生ひ及くごとし

この和歌は、恋しい人への恋慕う気持ちを夏草にたとえ、断ち切っても消えることのない想いを素直に表現した歌である。企画者は、相手を深く想う気持ちに感銘を受け、今回の企画は恋のう

たの宝庫である万葉集を取り上げることとした。

第 1 回目は、堤が特別講師として、万葉集を学ぶにあたっての心得や学習会の進め方の助言、万葉集の基礎的な知識を教授した。その後、堤らと共に実際に数首の歌を詠み、参加者からは「万葉集はもっと純朴なものかと思っていたら、こんなに洗練されていたなんて驚いた」、「とにかく感動した」など、高い評価を得た。第 2 回目以降は、堤の指導をもとに、企画者と参加者とで自主的に継続をして学習会を進めている（図 1）。

また、学習会で使用するテキストは、毎回企画者が選んだ和歌を数首載せ、その和歌に合うような背景を工夫し、手作りをしている（図 2）。これらのテキストは、学習会評価アンケート結果とともに、参加者から大好評であり、学習会に彩りを添えている。

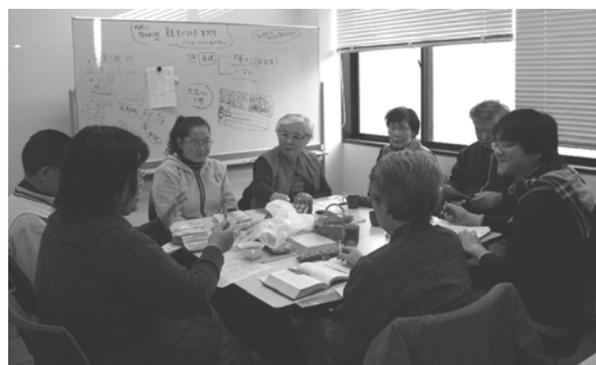


図 1. 恋のうた学習会の様子



図 2. 手作りの学習会案内

3. 洋画字幕翻訳コンテスト

企画者は、2009 年夏、字幕翻訳家の戸田奈津子氏が審査委員長を務める神田外語グループ主催の「日本語字幕翻訳コンクール」に応募した。この体験を通じて、字幕翻訳の難しさ、楽しさを感じた。そこで、企画者は英語を専門とする教員を中心に本学でも開催できないかと考え、「洋画字幕翻訳コンテスト」の企画を立案した。これが、Hatoba 文系企画第 2 弾である。

本コンテストを開催するにあたり、応募作品の審査員として欧米言語コースの教員一人一人に依頼し、協力を募ったところ、多数の教員から快諾を得た。そして、欧米言語コースが特別協賛として本コンテストに参加することとなった。

第 1 回目の字幕対象題材として選んだ映画はジョニー・デップ主演の「シザーハンズ」である。本映画の中から企画者が 1、2 分程度のシーンを 3 つ選び出し、各シーンにおける登場人物のセリフを 2 か所、参加者に字幕を付けてもらい、最大 3 シーンまで応募可能とした。

ポスターや応募用紙を作成するに当たり、「シザーハンズ」を見たことのない人のために、映画の DVD (2008, 20 世紀フォックスホームエンターテイメントジャパン株式会社) の貸し出しを行ったり、物語のあらすじを応募用紙に載せたり、各シーンの解説を細かく入れたり工夫を凝らした。広報にも力を入れ、欧米言語コースの教員の方々が担当している授業でも、応募用紙を配布した。その成果もあり、13 名の学生及び社会人の方から合計 34 点の応募があった。

2009 年 12 月 22 日(火)には第 1 回の授賞式を Hatoba の企画者が司会で執り行った。授賞式は第 1 部と第 2 部とに分け、第 1 部ではトークセッションと題し、本学欧米言語コースの教員により、企画者側の各シーンの字幕をその場で評価した(図 3)。参加者からは終始笑い声が聞こえ、和やかな雰囲気の中行われた。

第 2 部では、授賞式を執り行い、Hatoba 賞・3 位・2 位・1 位の順番で受賞者の発表を行った(図 4)。受賞者それぞれの字幕を入れたシーンを表彰後、参加者と一緒に鑑賞した。鑑賞後に審

査委員長である森岡が論評し、その後、受賞者が受賞の感想を述べた。参加者からは「おもしろい企画。映画も見られるし定年後の勉強にもなった。」等の好評を得た。



図 3. 洋画字幕翻訳コンテスト-第 1 部-



図 4. -第 2 部-授賞式の様子

4. おわりに

これまで多くの学生は、教員との二者間で学習をしてきた。Hatoba の企画のように社会人を変え、相互に学び合い刺激し合いながらの学習は、学生から、また社会人からの評判も上々である。これからも Hatoba は三者にとって意義のある“学びの場”を提供していきたい。

謝辞

洋画字幕翻訳コンテスト実施にあたり、ご協力をいただいた本学欧米言語コースの山内暁彦先生をはじめとする先生方、さらに、本企画の入賞賞品にご支援をいただいた欧米言語コースの先生方に心から感謝申し上げます。